

前回検討委員会での意見	修正内容		理由
	前文を追加 (この制度は、胆振支庁が設置した検討委員会で作成。来年度の試行を経て仕上げていく。)	前文	「洞爺湖有珠火山マイスター制度(平成20年3月)」の位置づけを明確にするため
	制度創設の背景に、これまで地元で行われてきた人づくりの取り組みを追加	1P	これまでの地元の努力があつての火山マイスター制度。突然人づくりを始めるものではない。2/29のフォーラムのそういう組み立て
	マイスターに期待する役割を明記	2P	例示が一人歩きする誤解が多かったため、役割をしっかりと書いた上で、活躍イメージを例示
こうした制度はネーミングが大切。「有珠火山マイスター」の方がわかりやすいのでは。(1つの制度に、マイスターとサポーターの2つの語源があると外国語パンフ作成などで混乱しないか)	制度の特徴を追加し、その中に火山マイスターの名称の理由を明記	1P	「なぜその名前か。」の説明がなかった。
国立公園の規制に関する基礎的知識も養成講座(主催講座)に盛り込むべき。	野外活動に関する基礎的な知識に「関係法令等」を追加	3P	具体的には自然公園法など
素案5頁に、「さらに研鑽実績を積み上げ～火山マイスターの称号授与～」とあるが、火山サポーターが研鑽し実績を積み上げる場はあるのか?	認定までの流れをわかりやすく書き直し。また、サポーターとマイスターの要件を具体的に記載	5～7P	学びたい全ての人→サポーター→マイスターという段階が分かりづらかった
火山サポーターの要件である受講経験には、今後の受講経験だけでなく、過去の受講経験も考慮した仕組みとするべき。	修正なし		対象とする受講経験の実施年度は、実施の際の要領で決める(具体的にはH18,19くらいか)
主観的な試験で受験者の不満が出ないか心配。試験の透明性を高めるため、森林インストラクター制度と同じように、点数制の試験も考えられるのではないか。	修正なし		火山マイスターの場合、現時点では、毎年多数の応募者があるとは考えられないため、点数制はなじまないと思われる。
特定の分野のプロフェッショナルからサポートを受ける仕組みとしてシニアマイスター(仮称)を位置づける視点もある	将来的な検討の視点に追加	9P	
エコミュージアム推進協議会での将来的な運営についてであるが、火山マイスター制度より広い範囲を活動の対象としているエコミュージアム構想との整合性も考えなければならない	将来的な運営組織については、現時点でエコミュージアムが最も合理的と考えるが、引き続き検討していく課題	15P、17P	
ガイドの申込先などの受け皿がないと火山マイスターの活動は容易ではないのではないか	修正なし		本格実施の状況を踏まえて検討しても遅くないのでは。なお、現時点では、幹旋的なことはしない考え。
国有林の保全活用、地権者と制度管理者とのすり合わせも必要。	修正なし		検討委員会の場で連携しながらすすめる
エコミュージアム構想の推進に当たって、エコガイドの検討しているところ。3月頃にはアウトラインできる見込み。このエコガイドと火山マイスター制度は連携が可能。	修正なし		検討委員会の場で連携しながらすすめる
今検討している火山マイスター制度は、この地域を対象としているが、将来的には、この制度をほかの地域にも広げ、全道的な人づくり制度となることを期待する。	修正なし		将来的な展開として可能性あり
	20年度の運営体制について明記	P16	本格実施に向けた過渡期としての20年度の進め方を説明する必要がある
	用語の解説を追加	P20	用語の統一のため
	検討委員会の検討経緯	P22	